

夏休み期間中の コロナウイルス感染症にかかる注意喚起

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に関して、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

学生の皆さんは毎日、できる限りの注意を払って慎重に行動していることと思いますが、「第7波」に突入後の感染者は「第6波」を大きく上回るなど、危機的な状況にあります。

については、引き続き最大限の「**基本的な感染防止対策**」の徹底に努めるとともに、**警戒感をもって慎重に行動することを強く要請**します。特に8月からの**夏休み期間中**には、帰省、旅行、レジャーなど、人と接する機会や、飲食（飲酒、カラオケなどを含む）の機会が多くなることから、あなた自身や家族、友達を守るため、**責任ある行動**を心がけてください。

I 感染予防について

<基本的な感染拡大防止対策を徹底>

- ① 熱中症に注意し、場面に合わせたメリハリある**マスク**の着用を徹底！
- ② **手洗い・アルコール消毒**など手指衛生を徹底！
- ③ **①密閉 ②密集 ③密接の回避**を徹底！
- ④ 密閉された空間では、こまめに「**換気**」！
- ⑤ 自分の健康状態を「**健康管理チェックシート**」に毎日記録！

II 警戒感をもった行動の徹底について

<感染リスクが高まる5つの場面を回避>

- ① 「**飲酒を伴う懇親会等**」
 - 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
 - 敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
 - 回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。
 - 屋外での会食、バーベキュー等であっても、飛沫は飛散し、感染するリスクがあることから、屋外における会食についても慎むこと。
- ② 「**大人数や長時間におよぶ飲食・カラオケなど**」
 - 長時間におよぶ飲食などでは、短時間の食事などに比べて、感染リスクが高まる。
 - 大人数の飲食・カラオケでは、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。
- ③ 「**マスクなしでの会話**」
 - マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
 - マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
 - 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

II 警戒感をもった行動の徹底について（つづき）

④ 「狭い空間での共同生活」

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。

⑤ 「居場所の切り替わり」

- 休憩に入った時など居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染リスクが高まる。
- 休憩室、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

III 慎重な行動・感染症相談窓口への報告について

（1）発熱など、体調に異変を感じた場合には、登校を控え、医療機関を受診する。

- 自身の体調管理を徹底し、発熱、頭痛、のどの痛み、倦怠感などの症状がある場合は登校しないで、必ず感染症相談窓口連絡すること。

（2）あなたや家族、友人が感染した、またはあなたが濃厚接触者になった場合は登校しない。

- 医療機関や保健所からの指導等によりPCR検査又は抗原検査を受ける場合は、必ず感染症相談窓口連絡し、結果を報告すること。

（3）帰省、旅行など、都道府県をまたぐ移動をする場合は特に留意する。

- 感染リスクの高い地域「緊急事態措置又はまん延防止等重点措置が実施されている地域」等への不要不急の往来は自粛すること。
- 自治体をまたぐ移動をする場合は、訪問先エリア（市区町村）の感染状況を必ず確認し、現地の注意事項に従うこと。
- 訪問先では、「感染リスクが高まる5つの場面」について特に注意し、感染回避行動を徹底すること。
- 岐阜県に帰ってきた後、体調に異変を感じた場合は、登校を控え医療機関等で受診すること。

IV 健康管理・健康観察について

日頃から、ご自身の体調管理・観察に留意し、少しでも体調に異変を感じた場合は、直ちに医療機関を受診するとともに、感染症相談窓口連絡すること。

V 感染症相談窓口の連絡先＜夏休み期間中も開設（休日を除く）＞

**発熱・頭痛・のどの痛みなどの症状があるとき
自分や家族が感染したとき・その疑いがあるとき
こんなときは、感染症相談窓口連絡してください**

TEL：0575-24-9308

（平日：9：00～17：00）

E-mail：support@chubu-gu.ac.jp

